

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200309		
法人名	社会福祉法人 三輪会		
事業所名	グループホーム天津風		
所在地	岐阜県関市大野852-1		
自己評価作成日	令和7年9月7日	評価結果市町村受理日	令和7年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人が変わりましたが、今までの伝統を残しつつ、これまで出来なかった遠足、お祭りなど入居者様に楽しんで頂ける行事が充実しました。感染症はまだ収まっていませんが、面会も基本的には、制限なしで行えるようにしています。その分体調管理には気を付けています。面会者の体調にも気を付けて、体温と手指消毒に協力していただいています。日々のサービスについても週2回の入浴しかない施設が多い中、少しでも多く入れるようにしています。介護業務の簡略化をめざし、ほのぼのというペーパーレスの記録媒体を使用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人が変更となったが、新たな法人理念とグループホーム理念のもと、良質な支援提供の継続に努めている。法人全体で企画される行事は、花見、遠足、合同運動会などがあり、利用者、家族、職員全員で参加している。運営推進会議には、複数の家族が輪番にて参加し、家族との連携を密にしている。建物は広く、オープンキッチンからは料理の匂いが広がる。ホールにはゆったりとしたソファが設置され、歌やゲーム、体操など、思い思いの場所で過ごす利用者、経験豊かな職員が穏やかに寄り添っている。看護師資格を持つ職員の配置や訪問看護ステーションとの連携により、医療と介護がひとつになった支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、地域の高齢者の方々が安心して暮らせる場所を提供できるように常に意識しています。	事業所の理念を事務室や廊下、壁に掲げ、毎朝の職員会議で唱和し、職員全員の意識化を図っている。職員は「優しく、丁寧に、誠実に」を心がけ、利用者の自立に向けた支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流はできていないが、運営推進会議に参加してもらったり、段ボール回収など提供する事を行っています。	自治会に加入し、資源ごみ回収の協力、夏祭り、どんど焼などの行事連絡を受け参加している。地域の文化祭には、利用者や職員が作成した貼り絵を出展するなど、地域住民と交流を深めている。機会あるごとに、事業所と地域との関係性を深める取り組みをしている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議で意見交換をし、取り組み状況の報告し意見を取り入れ、スタッフと情報共有してサービス向上に活かす取り組みをしている。	隔月で運営推進会議を開催し、市や地域包括支援センター、利用者家族等が参加している。行事の報告や取り組み状況、ヒヤリハットなどを報告し意見交換を行っている。家族の参加も多く、運営推進会議の目的に沿って、地域との連携を深められるよう取り組んでいる。	地域代表の欠席が多いようである、自治会長に限定することなく、地域から参加者を募り、依頼するなど、運営推進会議を活かして様々な関係者と意見交換できる場となる事を期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡は密にとっており、運営推進会議により取り組みを伝えている。	地域高齢者の現状、待機者情報の共有化を図り、助言・指導を受けながら、協力関係を築いている。運営推進会議では介護保険の動向等の意見交換を行い、行政主催の地域ケア会議には積極的に参加し、他の事業所の取り組み状況を学び、運営に活かしている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議の中で、身体拘束委員会を毎月行っており、正しい理解を努めている。	毎月、法人で開催する身体拘束ゼロ委員会に出席した管理者やケアマネジャーが、職員に報告している。身体拘束の芽を摘み、回避するための話し合いを行い、拘束をしないケアを実践している。議事録は全職員が閲覧している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議の中で、虐待防止委員会を毎月行っており、防止に努めています。	毎月、法人で開催する虐待防止委員会に出席した管理者やケアマネジャーが、職員に報告している。虐待に関する事例を参考に、職員間で話し合っている。虐待チェックシートでの確認を実施し、理解を深めている。管理者は職員の精神面及び健康面に気配りするよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会はあるが、実際に活用した経験はないです。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、担当者が時間をかけて十分な説明をして理解を得ています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を定期的設けて情報を交換している。	LINEを活用して、利用者の様子を写真や動画で家族に伝え、面会も日常的に受け付けている。ビデオ通話で声と表情を伝え、家族と利用者の絆を深める一助を担っている。運営推進会議も輪番制にて家族参加があり、全体の連携を深める場となっている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議の中で、意見を話し合い解決に取り組んだり、職員面談をして意見や提案を聞いています。	管理者も職員と同じシフトに入り、日常的に職員とコミュニケーションを図っている。経験豊かな職員や看護師などの専門職の配置があり、スタッフ会議で意見交換している。管理者は、職員の提案を真摯に受け止め、意見や提案を運営に活かしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員が持っている能力を協議して解決に取り組んでいます。	職員の育児・介護等、ワーク・ライフ・バランスに配慮しながら、希望休の受け入れなど、仕事と家庭の両立ができる支援体制があり、働きやすい職場環境作りに努めている。休憩時間は職員間で協力しながら、ゆっくり取ることができている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には、OJTをしっかり行っているが法人が変わり残念ながら研修を受ける機会の確保は行っていない	職員個々の力量を把握し、専門職としてのモチベーションを高める取組みを提案し、参加を呼びかけている。管理者は、職員のシフト調整を行いながら、全職員が希望する外部研修やオンライン研修等を受講できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三輪会になり月1回ほどスタッフ会議の中で、他の部署の交流や勉強会等に参加し活動を通じて、サービスの質の向上に繋がっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中は洗濯物たたみ、など出来る事をやっていただき、本人のやる気を引き出すよう努力している。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者様には個別ケア担当者を設けていて、日々コミュニケーションを取っている又は、本人と家族との連携を常に保つように努めている。	利用者1人ひとりの表情や会話、仕草等から希望や意向を把握し、寄り添うケアに努めている。担当職員は、丁寧な対応とゆとりある穏やかなケアを心がけている。知り得た情報は職員間で共有し、利用者の希望が叶えられるよう支援している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の個別ケア担当者が本人や家族からの要望などをかなえられる様に介護計画を作成し、情報共有している。	管理者、ケアマネジャーは家族と介護計画についての意見交換を行っている。職員間では月1回のケア計画検討会議にて、目標達成状況を検討し作成につなげている。医師や看護師からもアドバイスを受け、検討しながら現状に即した介護計画作りを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア担当者が中心となり、職員間で情報共有できる様にスタッフ会議やMCS等を活用している。	利用者の個別記録は、MSC(タブレット端末)に入力し、全職員で情報を共有している。業務記録、申し送り、気づきや個別ケアでの状態変化等、記載方法は従来通りの紙の書式で統一している。記録を確認し利用者の体調変化に注意しながら、ケアや介護計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケア担当者が本人の要望や家族の状況を把握し、LINEや電話で家族への連絡を行い、行事等の様子をLINEを活用し写真など家族に送っている。	買い物、受診同行、行政の手続等、利用者の状況やニーズに応じて、出来る限り柔軟な対応に努めている。利用者の個別対応で福祉用具などが必要な場合は、家族と相談した上で専門業者に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、三輪会の方の協力も少しずつ増えてきて入居者様のニーズにも対応し、遠足お祭り等楽しく暮らせるよう支援できている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、家族の希望を聞き、適切な医療を受けて頂けるように月に2回の往診を設けており、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に、かかりつけ医についての説明を行っており、利用者は協力医を選択している。月2回の往診を受け、看護師が医師と連携しながら利用者の健康管理を行っている。受診は、家族同行としているが、緊急時は家族に連絡し、職員が同行している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師が中心に病院関係者との情報交換を図り、早期退院できるよう行っている。	入退院の窓口は、管理者やケアマネジャーが担当している。家族や医療機関と連携し、利用者が安心して治療を受け、早い段階で退院できるよう支援している。また、利用者の状態を職員に説明し、事業所の受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時は、家族に連絡をし、これからのについての説明を十分にし職員の中でも情報を共有している。	重度化や終末期の対応について、契約時に利用者、家族に説明し了解を得ている。体調の変化時は、早い段階で関係者が話し合い、様々な方法や情報を家族に伝え、安心に繋げている。終末期の支援は、看取り経験も豊富な職員が日々ケアにあたっている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時は、責任者、看護師に報告できている。訓練は行っていないが、AEDの講習会は行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作り避難場所も職員が把握し、役分担も決め誰もが対応できるようにしている。	夜間想定を含め、年2回、消防署協力のもとで災害時緊急避難訓練を行っている。BCP策定を完了し、非常食の備蓄は3日分を確保している。感染症対策の学習会も行っている。今後は、近隣との協力関係を築き、地震水害訓練を行うとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉や笑顔で対応ができる様に心がけている。居室やトイレ等で対応する時は、ドアをしめてプライバシーを守る行いを心がけている。	常に傾聴を心がけ、穏やかな言葉かけを行っている。また、利用者が安心して会話を楽しみ、笑顔が自然に出るような支援に努めている。排泄や入浴介助時は、特に羞恥心やプライバシーに配慮するよう心掛けている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取り入居者様の思いを聞き取るように努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の得意な事を把握して裁縫や漢字の読み方、ことわざなど一人で好きな事が行える様に支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているので、入居者様の好みに合う味付けに心掛け提供している	利用者は下準備や盛り付け等、出来る範囲で手伝っている。食事は、利用者の状態に合わせた形態での提供により、ほとんどの人が完食できている。食事中はホールにBGMが流れている。月2回ほど、職員と共に買い物に出かけたり、おやつ作りも一緒に行っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師と相談し、個人それぞれの必要な栄養や水分量が確保できるようにしている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後30分経過後に口腔ケアを行っている それぞれ本人の自立度に合わせた介入を行い口腔内の清潔保持に努めている。	食後、利用者の状態に合わせた口腔ケアを行っている。自立が目標であり、出来ない部分は職員が補助し、見守りを重視して支援している。定期的に義歯洗浄も行っている。訪問歯科医、歯科衛生士の助言や指導を受け清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ほのぼのの排泄記録を確認したり、個々の排泄パターンを活かしてトイレ誘導の声掛けをしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	それぞれの状態やADLに合わせて無理なく入浴していただける様、入浴を支援し隔日で入浴を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は入居者様の状態や希望を聞き、休憩時間を設けている。夜勤者は入居者様の就寝時間を配慮し、個人に合わせた就寝介助を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認しながら服薬管理、ダブルチェックを行い服薬ミスのないように努めている。	薬剤・処方箋は、管理者が規程の場所で保管している。処方薬の変更時は、看護師でもあるケアマジャーが全職員に説明している。服薬支援時はダブルチェックで飲み終わるまでの作業を見届け、誤薬、飲み忘れを防いでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様それぞれに合った作業を提案させていただいている。一人で行うこともあれば他入居者様と行うこともあり楽しく作業していただいている。	洗濯物をたたむ、お茶の葉の袋詰めなど、利用者が楽しんで出来る作業を支援している。職員は「ありがとうございます」と感謝の声かけをし、利用者も率先して出来る作業を手伝っている。ホールでは、脳トレや将棋などを楽しむ人や歌を歌う利用者の笑顔が見ることができた。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人主催によるお祭り、遠足等の行事に家族協力の元外出している。	季節や利用者の体調に配慮しながら、事業所前の空きスペースで体操を行ったり、近隣の散歩を楽しんでいる。運動会、花見、クリスマス会などは、法人主催で行っており、利用者、家族、職員が楽しめる企画となっている。行事の際は家族に協力依頼も行っている。	散歩や日光浴以外に、少しでも気分転換ができるよう、行き先や移動手段を工夫し、家族の協力を依頼して、遠出の外出機会が増えることを期待したい。

岐阜県 グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の取り扱いはしていない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している入居者様は好きな時に電話をしている。家族からの電話が施設にかかってくる時はとりついている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ログハウス風の建物と開放的な空間と窓から見える景色が四季折々で季節間があり、オープンキッチンの開放的である。	事業所の廊下やホール、浴室等も広く、ゆったりとした室内環境である。ホールには音楽が流れ、利用者は会話を楽しみながら、ゲームや歌を歌うなど、様々な過ごし方をしている。ソファやテーブルも複数設置してあり、利用者は好きな場所で過ごすことができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の意思を尊重し、プライベート空間は確保されている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、テレビやラジオ、家族写真を持ち込み居心地よく過ごせるようにしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりに合った安全な環境作りを考え、転倒予防のゴムマットやベッドから足がついた時に作動するセンサーマットも設置して、事故防止に努めている。		